

谷口 彩子 (熊本大)

目的 これまで明治初期の翻訳家政書のなかで最も普及したとみられるハスケル原著、永峯秀樹訳『経済小学 家政要旨』（明治9(1876)年刊)の原典研究を行ってきたが、コスブルとコムの本の原書の抄訳とされてきたその後編については、未だその原典が解明されていない。そこで、本研究では『家政要旨 後編』の原典解明を行うことを目的とした。

方法 おもな資料として、永峯秀樹纂訳『家政要旨 後編』内藤伝右衛門、甲府(明治12(1879)年)、原書資料として、Thomas Bull “Hints to Mothers” Longman, Green, & Co., London(1875)(国立国会図書館所蔵)、Andrew Combe “The Management of Infancy” D. Appleton & Co., New York (1871)(内閣文庫所蔵)を用いた。

結果 山梨県立図書館所蔵『家政要旨 後編』版權願出書にもとづき原書を調査した結果、2種類の原書資料を入手できた。そのうちの1冊“Hints to Mothers”は、明治14(1881)年に大井謙吉訳『母親の教』として丸屋善七より翻訳刊行されている。2冊の原著者はいずれもイギリス人の医師である。両書とも、妊娠期から幼少期に至る子どもの養育に関する医学的知識を、両親とくに母親に対して提供するという目的で執筆されたものであった。『家政要旨 後編』は、この2冊の原典に基づき、配偶者選択から、結婚、妊娠、出産、子育てに至るまで、翻訳者永峯秀樹が内容を選択し、配列しながら翻訳を行ったものである。その翻訳方法により「永峯秀樹纂訳」と記されていることが解明できた。